

2005年1月14日

会社名 株式会社 高島屋  
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治  
 コード番号 8233

## 2004年12月度 高島屋営業報告

\* 2004年6月にレストラン街運営を東神開発(株)に移管した立川店の前年数値を調整し、分社4店の売上を含めた18店計前年対比を**実質**数値として表記しております。

**百貨店事業概況**      本年      -9.6      **実質**      -2.8      (前年比%)

引続き暖冬の影響により、コートなど重衣料やブーツなど防寒アイテムの動きが鈍く、クリアセール待ちも見受けられ主力商品が低迷した。クリスマス商戦は特選衣料雑貨・婦人雑貨を中心に好調に推移し売上の回復を見せたが、月末の降雪(関東地区)により客足も鈍り、18店計実質前年比は-2.8%と前年を下回った。関西地区では11月早期割引サービス浸透による歳暮受注前倒しが数値に影響した。

店舗別概況							関西計	
関西	大阪店	京都店	泉北店	岡山高島屋	岐阜高島屋	米子高島屋	本年	実質
売上	-4.5	-6.0	-10.5	-3.1	-8.8	-3.6	-17.5	-5.5
入店客数	-4.7	-5.1	-7.4	-0.7	-8.3	-5.0		

\* 大阪店には和歌山店・堺店、京都店には洛西店の売上を含む

店舗別概況								関東計		
関東	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎高島屋	本年	実質
売上	3.3	-2.6	-1.3	1.5	-5.3	-10.0	-3.5	4.7	-4.4	-0.9
入店客数	4.7	-3.0	-2.0	-0.9	-1.1	-8.8	-2.5	3.7		

\* 横浜店には港南台店の売上を含む

\* 立川店:実質-2.8%

<店舗別> 東京店・玉川店・高崎高島屋などリニューアル後の店舗が前年を上回ったが、他店舗は前年を下回った。また東京店ではクリスマス企画「オリジナルヘア」の展開や、「先取り福袋」の年内販売、春物早期展開などが奏効し売上を嵩上げた。

**広域事業概況**      法人      通販      |      広域計

7.1      -9.9      |      -0.5

<広域事業> 法人事業は、新規大型物件の受注増により前年を上回り、通信販売事業は、食料品、紳士衣料・雑貨は前年を上回ったが、婦人衣料・雑貨、リビング用品の低迷により前年を下回った。

**総計**      本年      |      **実質**

-9.1      |      -2.6

### 商品別概況 (百貨店協会商品区分)

	本年	実質		本年	実質		本年	実質
紳士服・洋品	-10.0	-3.7	身のまわり品	-3.7	1.6	食料品	-10.0	-3.4
婦人服・洋品	-12.6	-5.4				食堂・喫茶	-10.2	2.1
子供服・洋品	-16.5	-9.6	家具	-0.7	4.1	雑貨	-4.4	2.4
その他衣料品	-22.7	-14.0	家電	-1.6	4.1	サービス	15.1	17.7
衣料品計	-13.1	-6.0	その他	-12.5	-7.4	その他	-26.5	-23.5
			家庭用品計	-8.8	-3.8	合計	-9.1	-2.6

<店頭商品別> 特選衣料雑貨(前年比+4.1%)、婦人雑貨(同+1.3%)が好調に推移、クリスマスコルの展開強化により化粧品(同+4%)や、新規導入イタリブランド「キダルト」などアクセサリ(+4%)が牽引した。その他美術(同+6.6%)も前年を上回った。一方、紳士服(同-4.2%)、婦人服(同-5.6%)、ハビ・子供(同-8.6%)などが低迷、食料品(同-3.3%)も前年を下回った。